

## 「KIZUNA プロジェクト」研修において講演を行いました（2020/1/8）

テーマ：JICA、KIZUNA プロジェクト、災害リスクマネジメント

場所：カトリカ大学国立自然災害管理総合研究センター（チリ共和国、サンティアゴ）

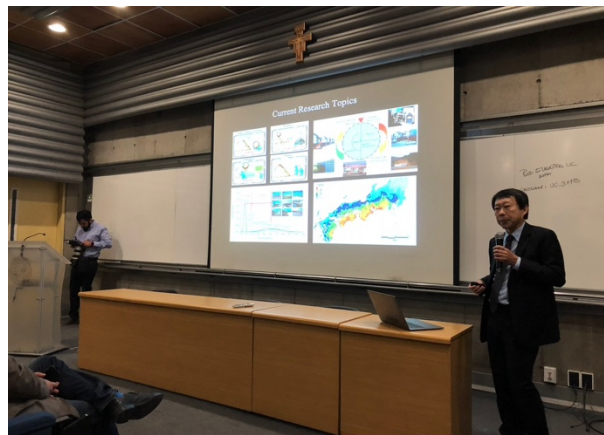
JICA が実施する事業のひとつに、中南米防災人材育成拠点化支援（KIZUNA）プロジェクトがあります。本プロジェクトは、日本とチリが培ってきた防災分野の技術と知見を中南米カリブ諸国にも普及し、各国の技術や経験を共有して国際的なネットワークを構築することを目的としています。チリの政府や大学、地域社会が中心となり、中南米の研究者や行政官を対象とした研修やセミナーを定期的に行っています。

今回は、防災分野における JICA 専門家として、当研究所の村尾修 教授（地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野）が派遣され、1月8日にチリ共和国サンティアゴ市にあるカトリカ大学国立自然災害管理総合研究センター（CIGIDEN）にて開催された「津波減災技術」研修において講演を行いました。

村尾教授は「Disaster risk management in urban contexts」と題して、国内外の各都市における地震津波災害の事例をもとにリスクマネジメントの重要性について話しました。中南米の各国から、約 30 名が研修員として参加しました。また、前日の 7 日にはカトリカ大学建築学専攻の関係者を対象に都市・建築・デザインと災害との関係について基調講演を行い、参加者と議論することにより、国際社会における防災の主流化を推進することができました。



会場入口



講演の様子



研修会参加者



カトリカ大学関係者